

2023年7月6日

松井塾生 各位

受験 松井塾

2023年度 第2回松井塾オリジナル『読書検定』実施のお知らせ

語彙は考える力の源です。読書は何かを気づかせてくれます。読書はまた考えるきっかけになります。物語は、私たちを未知の世界へ導き、新しい経験をさせてくれます。新書や新聞は、みなさんがこれまでわからなかったことや、確信できなかったことに「こういうことだったんだ！」と謎を解くカギになります。

2023年度第2回読書検定 ～実施要項～

●検定日：8月19(土)・21(月)・22日(火)

夏期講習授業時間内に実施（試験日は担任が伝達しま

●検定本

- ・『ドリトル先生 アフリカへ行く』ヒュー・ロフティング
- ・『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ
- ・『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』フレイティみかこ

合格者にはポイント贈呈！

検定合格：20pt

満点合格：30pt

合格率トップクラス：全員に

まだ読書に慣れていない小学生には「ドリトル先生」をおすすめします。シリーズの第1巻の「アフリカへ行く」が検定本です。読書習慣のある生徒は、「そして、バトンは渡された」を読みましょう。本屋大賞を受賞し、映画化もされた作品です。

「ぼくはイエローで…」は読みやすく、考えるきっかけを与えてくれるノンフィクションです。小6生の受験クラス、推薦入試を考えている中3生のみなさんにとっては、受験にもつながる一冊です。

出題内容

本の内容についての基本的な問題が出題されます。国語の読解問題のような出題はありません。作者名や登場人物について、作品の舞台、人物の関係や話の大まかな流れを覚えながら読み進めるとよいでしょう。あなたが感動した、心に残った文章・言葉はノートにメモをして覚えておきましょう。

ヒュー・ロフティング 『ドリトル先生 アフリカへ行く』(角川つばさ文庫) 704円



読書の入り口として、世界中で愛され続けている名作を読みましょう。

ドリトル先生は動物のことが話せる、世界でただひとりのお医者さん。でも患者は動物ばかりで人はよりつかず、いつもびんぼう。ある日、ジャングルのサルの間で広がる、おそろしい伝染病の話聞き、友だちのオウム、子ブタ、アヒル、犬、ワニたちと、船でアフリカへとむかいます。海ぞくとの対決、世にもめずらしい生き物との出会い…。

びっくりゆかいなお話がいっぱい！おもしろかったらシリーズ全作品（全13巻＋番外編）を読みましょう。

瀬尾まいこ 『そして、バトンは渡された』(文春文庫) 814円



2019年に本屋大賞を受賞し、映画化もされた作品です。

主人公は森宮優子、17歳。「私には父親が3人、母親が2人いる。家族の形態は、17年間で7回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ。」

幼い頃に母親を亡くし、父とも海外赴任を機に別れ、継母を選んだ優子。その後も大人の都合に振り回され、高校生の今は20歳しか離れていない「父」と暮らす。血のつながらない親の間をリレーされながらも、出逢う家族皆に愛情をいっぱい注がれてきた彼女自身が伴侶を持つとき――。

継父継母が変われば名字も変わる。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。身近な人が愛おしくなる、そんな感動作です。

フレイティみかこ 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮文庫) 693円



「本屋大賞ノンフィクション本大賞」や「中高生におすすめする司書のイチオシ本」など数々の賞を受賞したこの作品は、作者の息子さんが通った学校で実際に起こった出来事をもとに書かれているノンフィクションです。

イギリスの人種も貧富の差もごちゃまぜの元底辺中学校に通い始めたぼく。人種差別丸出しの移民の子、アフリカからきたばかりの少女やジェンダーに悩むサッカー小僧……。まるで世界の縮図のようなこの学校では、いろいろあって当たり前、でも、みんなぼくの大切な友だちなんだ――。優等生のぼくとパンクな母ちゃんは、ともに考え、ともに悩み、毎日を乗り越えていく。最後はホロリと涙のこぼれる感動のリアルストーリー。

※注意※

課題図書は塾では販売しません。各自で購入するか、図書館・図書室で借りて読んで下さい。未来屋書店(板橋イオン4F)で購入する場合は、7月5日(水)より松井塾コーナーに並びます。